

平成11年度試験研究成果

区分	普及	題名	キャベツの早春まき 6月どり栽培技術		
〔要約〕 県中南部の6月どりキャベツ栽培では、定植後の生育促進技術と作期の組み合わせにより6月上旬～下旬の連続収穫が可能となる。積雪地帯の場合、前年中にマルチまでの圃場準備をしておくことで定植作業を早めることが可能となる。					
キーワード	6月収穫作型	早春まき	前年作畦	園芸畑作部 野菜畑作研究室	

1. 背景とねらい

本県ではキャベツの生産振興を進めているが、その中で県中南部での5～6月収穫を加えたりレー出荷体制の確立が求められている。その中で早春まき6月どり作型の安定技術を検討した。

2. 技術の内容

(1) 定植後の生育促進技術と作期の組み合わせにより、6月上旬～下旬の連続出荷が可能となる。(表1、表2)

目標収穫期	作 期		生育促進技術	
	播種期	定植期	マルチ	べたがけ
6月上旬	2月中～下旬	3月中～下旬	前年マルチ(透明が適)	有
6月中旬	3月上～中旬	4月上～中旬		
6月下旬			無	無

(2) 積雪地帯での慣行栽培では3月の融雪後に定植準備を行うと定植期は概ね4月中旬となるが、前年中に施肥・作畦・マルチしておくことで、3月中旬の定植作業が可能となる(表3、表4)。

3. 普及上の留意事項

- (1) 前年作畦では、肥料分の溶脱を避けるため施肥後直ちにマルチ展帳を行う。
- (2) 透明マルチを使用する場合、たるみが生じないように展帳することにより雑草の生育を抑制できる。
- (3) 前年作畦におけるマルチ栽培では、全面マルチと平高マルチの違いによる生育差は小さいが、春先の作業性を考慮に入れると全面マルチが適する(表3)。
- (4) 低温期の育苗であるので加温育苗を行い、発芽や生育を揃える。
- (5) 定植期が低温期に当たるので、定植5日程度前から低温順化を行い、定植直後の霜害や低温害を回避させる。
- (6) ベたがけを被覆する期間は定植直後から結球開始直前までとするが、最高気温で18以上の日が続くと予想されるときは除去する。特に定植後から活着までの間は高温障害が発生しやすいので注意する。

4. 技術の適応地帯
県中南部

5. 当該事項に係る試験研究課題

〔野菜3〕 - 1 - (1) - イ (ア) キャベツの5～6月どり作型の確立

6. 参考文献・資料

昭和63年度	指導上の参考事項	高冷地開発センター
平成元年度	指導上の参考事項(追補)	高冷地開発センター
平成10年度	野菜関係成績書(未定稿)	岩手県農業研究センター 野菜畑作研究室
平成11年度	野菜関係成績書(未定稿)	岩手県農業研究センター 野菜畑作研究室

7. 試験成績の概要

表1 前年作畦マルチ栽培(全面・黒)における作期と生育・収量

試験年次	試験区名 (設定播種期)	播種期 (月・日)	定植期 (月・日)	結球期*1 (月・日)	収穫期 (月・日)	調整重 (g)	球緊度*2	球径 (cm)	球高 (cm)
H10	2月上旬	2.3	3.18	5.6	5.29	950	0.52	16.1	13.1
	2月中旬	2.13	3.18	5.7	6.4	1804	0.62	18.5	14.8
	2月下旬	2.25	3.30	5.12	6.4	1223	0.59	16.9	12.4
	3月上旬	3.5	4.6	5.20	6.9	1031	0.59	15.7	12.0
	3月中旬	3.20	4.21	6.5	6.18	915	0.58	15.9	12.0
	3月下旬	3.27	4.25	6.15	6.26	1146	0.47	17.6	13.5
H11	1月下旬	1.25	3.18	5.20	6.9	1090	0.52	17.1	13.6
	2月上旬	2.3	3.18	5.11	6.4	925	0.46	16.7	13.6
	2月中旬	2.12	3.18	5.18	6.9	1230	0.54	18.1	13.2
	2月下旬	2.25	3.30	5.19	6.9	1238	0.53	18.0	13.8

*1 結球期：結球葉がピンボン玉大に達した株数が調査株数の50%に達した月日

*2 球緊度 = 球重 / 球体積

供試品種：Y R 青春2号

育苗方法：128穴セルトレイ、加温育苗

施肥量：窒素18.0 燐酸20.0 カリ16.0 (kg/10a)

栽植様式：畦幅45cm 株間40cm 5555株/10a

定植後から結球開始直前までべたがけ被覆(供試資材：パスライト、H10は高温により4/20除去)

H10：播種後23日目から、日中外気温に当て低温順化

H11：播種後23日目から定植日まで5で苗貯蔵(低温順化を兼ねる)

表2 裸地栽培における作期と生育・収量

試験年次	試験場所	試験区名 (設定播種期)	マルチ・べたがけ 有無	播種期 (月・日)	定植期 (月・日)	結球期*1 (月・日)	収穫期*1 (月・日)	調整重 (g)	球緊度*2	球径 (cm)	球高 (cm)
10	北上	3月上旬	無 有	3.5	4.6	5.23	6.12	856	0.56	14.9	11.4
		3月中旬	無 無	3.20	4.21	6.15	6.30	1038	0.73	15.0	10.9
		3月下旬	無 無	3.27	4.25	6.15	6.30	962	0.65	15.2	10.7
	遠野	3月中旬	無 無	3.19	4.20	-	6.25	919	0.46	15.5	13.0
		3月下旬	無 無	3.27	4.30	-	7.6	1208	0.66	15.1	13.7
11	北上	3月上旬	無 無	3.5	4.17	5.27	6.22	1534	0.51	18.7	14.7
	胆沢	"	無 有	-	4.10	-	6.17	1007	0.51	16.4	12.3
	遠野	3月下旬	無 有	3.25	4.30	-	7.6	1143	0.53	16.5	13.6
		"	無 無	3.25	4.30	-	7.6	920	0.52	16.0	13.3

供試品種：Y R 青春2号

育苗方法：128穴セルトレイ、加温育苗

現地試験場所 遠野：遠野市松崎町(280m) 胆沢：胆沢町若柳

表3 作畦方法と生育・収量(平成11年度)

試験区名	作畦		施肥 方法	播種期 (月・日)	定植期 (月・日)	結球期*1 (月・日)	収穫期 (月・日)	調整重 (g)	理論収量*3 (kg/10a)
	時期	時期							
前年マルチ	12月上旬	11月下旬	全量全層	2.12	3.18	5.11	6.2	1151	6394
当年マルチ	4月上旬	4月上旬	全量全層	3.5	4.17	5.24	6.14	1197	6649

*3 理論収量：調整重 × 栽植本数

表4 前年作畦マルチ栽培におけるマルチ展帳方法と生育・収量(平成11年度)

試験区名	結球期*1 (月・日)	収穫期 (月・日)	調整重 (g)	球緊度*2	球径 (cm)	球高 (cm)
全マルチ・黒(早)	5.11	6.2	1151	0.46	16.7	13.6
全マルチ・黒(遅)	5.11	6.2	947	0.49	15.6	12.3
全マルチ・透明(遅)	5.9	6.2	1241	0.51	17.2	13.4
平マルチ・黒(遅)	5.16	6.2	1103	0.47	16.5	13.8
平マルチ・透明(遅)	5.9	6.2	1299	0.50	17.3	14.2

播種期：2/12 定植期：3/18

マルチ展帳 遅：施肥・作畦2週間後 早：施肥・作畦当日